

2004年7月9日

関係各位

上智大学 経済学部

荒木 勉

拝啓 貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

経済状況が混沌とする中で、さまざまな分野での構造改革が実施されております。食品業界でも、業務改善によるコスト低減、在庫圧縮などの企業努力が積み重ねられています。しかし、企業単独やグループだけでの努力にも限界があり、なかなか効果が挙げられないのが実情のように思われます。加えて、O-157やBSEなどの事件が起こり、鳥インフルエンザによる社会不安が起こっております。まさに食の安全・安心が求められており、食品業界において、トレーサビリティやサプライチェーン・マネジメントを導入することが重要なテーマとなってきました。

このような状況の中で、RFIDが注目を集めています。これは、電子タグ、無線タグ、ICタグ、RFタグなどとも呼ばれ、インターネットと組み合わせて活用する新しいデータキャリアとして期待されており、ユビキタス社会の主役とされています。米国のウォルマートが2005年1月から取引業者上位100社にパレットなどに添付することを義務付けることにしています。英国のTescoや独のMetrom、米国国防総省も同様にRFIDの導入を決定しております。我が国でもe-Japan構想の中でRFIDの普及促進を盛り込んでおります。

このたび、食品業界の流通・物流の構造改革を目指して、下記のような業界団体を設立しました。つきましては、皆様方の参加をお願いする次第です。

この組織は、長期的には、バーコードと二次元シンボル、RFIDが混在する状況になったときのビジネスモデルを検討する場としたいと考えております。

しかし、当面はRFIDの機能や特性を知り、メーカーから卸、小売りに至るサプライチェーンに応用する方法を勉強することに主眼をおいた組織にしたいと考えております。RFIDの周波数と出力との関係といった基礎項目に加えて、メーカー出荷時に外装箱やパレット、カゴ車、折り畳みコンテナ(通い箱)にRFIDを貼付して輸送業者を介して卸や小売りまで運ぶ際のトラッキングやトレースのデータベース構築、流通センターやバックヤードにおけるリアルタイムでの在庫把握システムの構築、サプライチェーンを通したユニットロード化の可能性、個品に貼付した際のレジ一括精算、消費者が望んだ際のRFID情報の消去などの実証実験を実施する予定です。

技術部会を始め、物流、トレーサビリティなどの部会を設けて勉強会を開催したり、セミナーを開催し、実証実験を実施します。これらの活動についてはメンバーと相談しながら進めることにいた

します。企業や団体で個別に実施される実験や勉強会との情報交換を推進するつもりです。また、RFIDベンダーやSIなどの関係企業の参加は公平にします。

なお、活動に際して(財)流通システム開発センターのご支援をいただくことになっております。また、慶応大学の村井純教授に技術的なご指導をお願いしています。

設立の趣旨をご理解いただき、積極的に参加をお願いします。

敬具

記

名称:特定非営利活動法人「食品流通高度化推進協議会」

役員:理事長 荒木 勉(上智大学 教授)

副理事長 坂井 宏((財)流通システム開発センター 専務理事)

理事 懸 厚伸(イオン(株) 常務)

理事 岡村洋次(株)イトーヨーカ堂 取締役・執行役員)

理事 鎌田利弘(味の素(株) 理事)

監事 本山和夫(アサヒビール(株) 執行役員)

顧問 村井 純(慶応大学 教授)

連絡先:〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

TEL:03-3238-3639(荒木勉研究室)

FAX:03-3238-3086(経済学部事務室)

以上